

地 理 歴 史

『地理総合，地理探究』

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前文

第 1 問から第 6 問における 30 の設問で構成され、学習指導要領の「地理総合」及び「地理探究」の大項目を踏まえた出題であり、第 1 問と第 2 問は「地理総合」との共通問題、第 3 問から第 6 問は「地理探究」の「A 現代世界の系統地理的考察」、「B 現代世界の地誌的考察」、「C 現代世界におけるこれからの日本の国土像」に関わる出題である。

問題作成方針では、学習指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ、地理に関わる事象を多面的・多角的に考察、構想する過程が重視されている。なお、評価に当たっては、15ページに記載の 8 項目の観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

第 1 問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第 2 問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第 3 問 世界の自然環境と自然災害に関して、地図や資料から情報を読み取り、地理的事象に関する知識を基に、場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、地形や二酸化炭素濃度の地域的差異、日本における土壌の分布、北アメリカの自然環境、世界の地域別水資源量、火山災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問 1 三つの海域における海底の起伏を示した図を読み取り、プレートテクトニクスに関する知識と関連付けて、海底地形の分布や特徴を考察する良問。

問 2 三つの地点における大気中の二酸化炭素濃度の推移を示すグラフを読み取り、南北半球の季節変化に着目して、二酸化炭素濃度の地域的差異の要因を考察する良問。

問 3 日本の土壌分布に関する地図を読み取り、地形と土地利用の関係に関する知識を基に、各指標を判断する問題。

問 4 北アメリカ大陸の四つの範囲について、地形の成り立ちや植生に関する知識を基に、それぞれの範囲における自然環境の特徴について考察する問題。

問 5 世界の諸地域における水資源量に関するグラフを読み取り、気候や人口規模などの知識を基に、水資源量の地域的差異の要因を考察する良問。

問 6 火山周辺地域のハザードマップを読み取り、積雪期と無雪期のそれぞれの時期に起こり得る自然災害の特性や火山灰の降灰範囲について考察する問題。

第 4 問 衣料品類の生産、流通、再利用・再資源化に関して、統計資料や地図を読み取り、地理的事象に関する知識を基に、場所や空間的相互依存作用などに着目して、天然繊維の生産地、繊維工業の立地と変化、衣料品類の輸入先の変遷、衣料品類の店舗立地、中古衣料品類の貿易と国際的アパレル企業の立地について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問 1 三つの天然繊維の生産量についての地域的差異を示した図を読み取り、世界の農業に関する知識を基に、綿花生産の地理的特徴について考察する問題。

- 問2 化学繊維製造業と綿紡績業の歴史や動向についての資料を読み取り、日本の重化学工業についての知識を基に、化学繊維製造業の立地の変化について考察する良問。
- 問3 日本におけるアジアのいくつかの国からの衣料品輸入額とその変化についての資料を読み取り、各国の工業の発展過程と関連付けて、衣料品輸入先の変遷を考察する良問。
- 問4 衣料品・身回品小売業の立地の特徴について、他の小売業の立地の特徴と比較して考察する問題。
- 問5 中古衣料品類の輸出額と輸入額、衣料品の再資源化の取組に関する資料と文章を読み取り、中古衣料品類の貿易の地理的特徴や国際的アパレル企業本社の立地傾向を考察する問題。
- 第5問 人口と都市に関して、様々な統計資料や図を読み取り、地理的事象に関する知識を基に、場所や空間的相互依存作用などに着目して、世界の人口分布と農業生産との関わり、人々の国際移動、人口転換、都市機能と都市の内部構造、日本における大都市圏への経済活動の集中、日本の都市の変容と課題について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。
- 問1 諸地域の人口密度と1人当たり穀物生産量の推移を示す資料を読み取り、その変化や地域的差異を考察する問題。
- 問2 三つの国の国外居住者数と外国人居住者数を示した資料を読み取り、人々の国際移動に関する社会的背景や人口規模についての知識を基に、各国を判別する問題。
- 問3 三つの国の自然増加率の推移と人口ピラミッドの変化を示した資料を読み取り、人口転換に関する傾向性と各国の経済水準に関する知識を基に、メキシコを判別する問題。
- 問4 ニューヨーク都市圏とデトロイト都市圏について、中心都市と周辺地域の住民の職業別就業者割合を示す図を読み取り、両都市圏の都市機能の差異と、アメリカ合衆国の都市圏内における居住地域分化に関する知識を関連付けて、両都市圏の共通性と差異を考察する問題。
- 問5 都道府県別の第一次産業就業者割合、平均通勤・通学時間、持ち家住宅割合の階級区分図を読み取り、日本の大都市圏と地方圏の産業や生活環境の地域差に関する知識を基に、各指標を判断する良問。
- 問6 地方都市における人口集中地区の範囲や大型店舗の分布の変化を図から読み取り、モータリゼーションの進展による都市の変容やコンパクトシティ政策について考察する良問。
- 第6問 ドナウ川、ナイル川、メコン川の三つの国際河川の流域に関して、多様な資料を読み取り、対象地域に関する知識を基に、空間的相互依存作用や地域などに着目して、流域の気候、景観と地域の特徴、貿易の輸送手段、水資源問題、流域の国々の変化について、思考力、判断力を測る問題で構成されている。この地域における様々な地理的事象の共通性や多様性、結び付きを問うている。
- 問1 三つの河川流域における源流から河口にかけての気候帯の移り変わりを読み取り、世界の気候の大まかな分布や気候因子に関する知識を基に、各河川流域の気候の特徴を考察する良問。
- 問2 ハルツームとプノンペンいずれかの景観写真と文章から、プノンペンに該当するものを判断する問題。
- 問3 オーストリアにおけるドナウ川周辺の国境を通過する貨物量とその輸送手段別割合を示した資料を読み取り、近隣諸国との経済的結び付きや輸送手段を考察する問題。
- 問4 水資源の国外依存度を国別に示した主題図を読み取り、世界各地で生起している水資源問題の構造などを考察する良問。
- 問5 三つの河川流域を含む国々における、1人当たりGDPの平均値やその変動係数の変化を読み取り、経済的格差の縮小やその背景を考察する問題。

3 分量・程度

第1問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第2問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第3問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。

問2は、資料の示す特徴が表す意味の解釈が難しく、判断に戸惑った受験者もいたと考えられる。資料や文章量ともに適切である。

第4問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。

問3は、資料を的確に読み取る技能やアジア諸国の工業の発展過程に関する知識によって差が現れたと考えられる。問4は、小売業の立地という受験者の生活経験からも考えやすい題材であるだけに、生活環境の違いが解答に影響した可能性がある。資料や文章量ともに適切である。

第5問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う設問で構成されているが、やや難易度が高い設問も見られた。

問4は、受験者には見慣れない職業分類が用いられているとともに、凡例を判断する上での手掛かりが得にくく、正答にたどり着く過程が見えにくい問題構造となっている。着眼点を適切に提示し、出題の意図が受験者に伝わるような工夫が求められる。

第6問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。

問3はドイツと東欧諸国との経済規模の違いや現代における主たる輸送手段に関する知識を活用することが求められ、やや難易度が高い。

4 表現・形式

第1問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第2問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第3問 多様な資料が用いられており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する出題形式で適切である。問3の日本における土壌分布に関する資料や、問6の火山周辺地域のハザードマップを積雪期と無雪期で比較する資料など、新しい切り口の資料が用いられた。問1の海底地形の陰影起伏図は、世界の海底地形の特徴を視覚的に理解できているかが問われ、学習の深さが解答の鍵となった。

第4問 工業製品の生産、流通、再利用・再資源化について、大問を通じて生徒が探究学習を行う場面設定により、身に付けた概念的な知識を活用して多面的・多角的に考察する出題形式で学校現場での実践にも参考になる。問5は、衣料品類の再利用・再資源化という持続可能性に関わる出題であり、「地理探究」における設問として適切である。

第5問 多様な資料が用いられており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する出題形式で適切である。問2は、散布図中の位置に近い二つの国を判別する上で、当該国に関する知識だけでなく、一般的共通性の視点からも推論ができるよう、判断材料となる第三国の値を示すなど、思考を促す資料提示の工夫が欲しい。

第6問 地誌大問における三つの国際河川の流域という地域設定は斬新な一方で、実際の授業としてはあまり見られない地域区分の仕方である。問3は、リード文や資料の意味を捉えにくく、解答に関する重要な情報が注釈で示されており、受験者が困惑したと思われる。オーストリアと近隣諸国、ドナウ川の流路を地図で示すなど、題意を理解しやすい資料提示の工夫が必要である。問2は、この二つの都市を取り上げる意図がつかみにくい。地誌大問として、地域区分した地域のもつ意味や意義が一層感じられる出題を求めたい。その他の問題は、多様な資料が用いられており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的

に考察する出題形式で適切である。

5 まとめ（総括的な評価）

問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿って、学習指導要領において育成することを旨とする資質・能力を測るための良問で構成されている。特に、高等学校教育で身に付けた、大学教育の基礎力となる知識及び技能や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くための文章や統計資料、主題図といった様々な資料の読解力が試される試験となっている。

第2問と第4問で場面設定がなされ、特に第4問は、衣料品類を題材に探究する学習の様子が描かれている。情報の収集や主題図などの資料作成を行い、それらを考察するといった実際の授業場面や学習過程に沿った出題となっている。第3問の間6は、「地理総合」での学習内容を踏まえつつ、融雪型火山泥流を事例に、自然災害の特徴を複数の地図から考察する設問である。第6問では、ドナウ川、ナイル川、メコン川の国際河川を取り上げ地誌的な考察を行う出題形式であるものの、三つの河川流域を地域区分の指標とすることの意義が伝わりにくい。この地域区分による出題の意義や意図が一層感じられる設問構成の工夫が求められる。

第3問や第5問では、「地理探究」C(1)「持続可能な国土像の探究」に言及した出題が一部で見られ、「地理探究」らしい出題である。また、リード文での言及はないものの、「持続可能な国土像の探究」につながり得る設問も複数見られる。C(1)は、「地理総合」及び「地理探究」で学習した内容や、獲得した概念を活用して取り組む、地理学習の集大成として位置付けられる重要な学習のまとめりである。高等学校における授業の在り方への提起として、今後も様々な出題形式の在り方を期待したい。

昨年度の大問構成を踏まえつつ、新課程2年目における『地理総合、地理探究』の試験として、各大問での出題分野が固定的とならないよう工夫された大問の構成であった。今後も、本試験及び追・再試験の大問構成やそこで扱われる分野が固定的とならないよう、多様な大問構成の在り方を模索されることを期待したい。

全体的には適切な難易度であり、受験者にとってほぼ初見となる資料が付された問題が目立つものの、資料の意味や特徴を読み取り、地理的な見方・考え方を働かせることができているかを問うものとして適切である。第4問の間4や、第5問の間4は、凡例の指標が受験者にとって馴染みがなく、正答にたどり着くための着眼点が分かりづらい問題である。高得点を取りにくい状況があり、引き続き、高等学校での学習成果が得点に反映されやすい出題の工夫をお願いしたい。

全体を通して、高等学校での学習内容を基にした思考力を問う問題や探究活動の過程を再現する問題が随所に見られ、高等学校における授業改善の指針となる試験である。